

当社福島第一原子力発電所、福島第二原子力発電所における
津波の調査結果について

平成 23 年 4 月 9 日
東京電力株式会社

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分頃に発生した東北地方太平洋沖地震により、当社福島第一原子力発電所、福島第二原子力発電所に到達した津波の調査結果の概要は以下の通りです。

福島第一原子力発電所では、主要建屋設置エリアの海側面において、浸水高 O.P. 約+14~15m（浸水深 約 4~5 m）の浸水がほぼ全域で生じているのに対し、福島第二原子力発電所では、海側エリアにおいて、浸水高 O.P. 約+6.5~7 mの浸水が生じましたが、主要建屋設置エリアにおいては、1、2号機の建屋周辺および3号機の建屋南側のみ浸水しました。

以上から福島第一原子力発電所への津波の影響は、福島第二原子力発電所のものに比べ、大きかったことが確認されました。

今後、発電所敷地内および敷地周辺の浸水高等について詳細を把握するとともに、建屋への海水の浸入、設備への影響について詳細に調査する予定です。

現在把握している福島第一原子力発電所・福島第二原子力発電所における浸水高および浸水域は、以下の通りです（添付資料1、添付資料2参照）。

【浸水高】

<福島第一原子力発電所>

原子炉建屋、タービン建屋等が設置されている主要建屋設置エリアの海側面では、ほぼ全面にO.P. 約+14~15m（浸水深 約4~5m）

<福島第二原子力発電所>

海水系ポンプが設置されている海側エリアでは、O.P. 約+6.5~7m（浸水深 約2.5~3m）

原子炉建屋、タービン建屋等が設置されている主要建屋設置エリアでは、1号機の建屋南側面のみO.P. 約+14~15m（浸水深 約2~3m）

【浸水域】

<福島第一原子力発電所>

海水系ポンプが設置されている海側エリアの全域

原子炉建屋、タービン建屋等が設置されている主要建屋設置エリアのほぼ全域

<福島第二原子力発電所>

海水系ポンプが設置されている海側エリアの全域

原子炉建屋、タービン建屋等が設置されている主要建屋設置エリアでは、1、2号機の建屋周辺および3号機の建屋南側のみ

（海側エリアから斜面を越えて主要建屋設置エリアへの遡上は認められない）

以 上

添付資料1：福島第一原子力発電所 津波の調査結果

添付資料2：福島第二原子力発電所 津波の調査結果

【用語の解説】

- ・ 浸水高

建物や設備に残された変色部や漂着物等の痕跡の、基準面からの高さ
(下図参照)

- ・ 浸水深

建物や設備に残された変色部や漂着物等の痕跡の、地表面からの高さ
(下図参照)

- ・ 浸水域

津波によって浸水した範囲 (下図参照)

- ・ O.P. (小名浜港工事基準面)

T.P. (東京湾平均海面) の下方 0.727m にある基準面

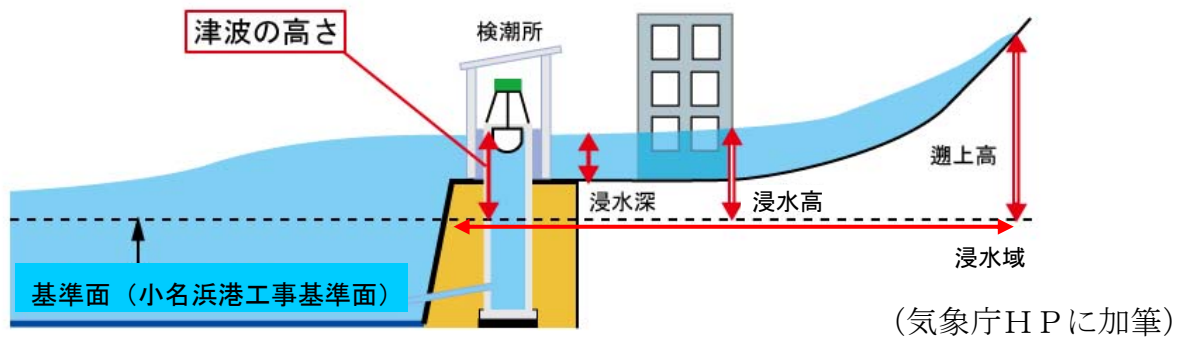


図 用語の定義